

夕刊 いわき民報

発行所
いわき市平字田町63
いわき民報社
振替口座(郡) 4028
小名浜支社 ⑧1666
常磐支局 ⑧3560
勿来支局 2380
⑧2903

昨夜本社屋が全焼

復旧に数日かかる見込み

二十一日午後十一時三十分ごろ、いわき市平字田町六三、平多クシ一ビル経営者花塚文彦さん(六二)の事務所一階事務場付近から出火、異臭が立ち上り、全下で空気が乾燥してため火の回りが速く、同事務所五十八、四平方メートルを全焼、さらに隣隣のいわき民報社、レストラン・プラザビルに延焼(六百六十七・八平方メートル)三棟八百二十六平方メートルを全焼し、二十三日午前零時ごろ鎮火した。通報がくれたため消防ポンプが駆けつけたのは、三棟とも階上が火の海にうつり、とくに本社等は階上ホール(平ロータリー事務所)をはじめ事務部、写真部などが総なめにされ、紙型をさるローリングが破損、活字もやられ、輪転印刷は二分中止せざるを得ない状態になった。壁下の印刷部、鋳造部、編集、営業部などを事務室は水びたしにあって、重要書類は幸い無事だった。

原因調査は並警署調査中だが、平多クシ一階上、炊事場兼書庫から出火したと見られ、時折の黒煙があがったままの油類に延火したとみられ、隣接に隣家のいわき民報社、レストラン・プラザビルに延焼したもので、回復は風が無かったのが幸だった。

二階に子供が
三人寝ていた
—花塚さんの話—

出火直前平多クシ一事務所には、花塚さんの次女文彦さん(三三)と二人が、一階事務場事務室をたづねていたが、花塚さんは「二階から煙が出てくるのに驚いて消防署に連絡した。二階には子供が三人寝ていた。おとなはなかった」と話している。

類焼お見舞お礼

類焼の際は、各方面からたくさんお見舞をいただきありがとうございました。紙上をもつて厚くお礼を申し上げます。
社長 野沢 武蔵
以、社員一同

痛感された防火壁

火勢はレンガ壁のない二階の屋根に伝わり、二気に燃えあがったが、天井が高かったこともあって階下への延焼が少なかったことがあげられる。この火災で、痛感されたのは、家屋の密集地帯にあつては、防火壁がいかに大切かということだ。
平・五町目線が家屋の隙間を高いコンクリートへいませめてきているように、今後の家屋建設はこの五十方に気を配るべきである。

団員二人が一週間のケガ

この火事で、平海園第三分団の岡田平六郎(五五)、根本次郎(五三)の二人が手なまじり一週間のケガをした。

本社でビル建設へ

本社昭和十五年一月、今は桃園のビル内、で経営役員「平多クシ」一代社長から関内油店会を開設、助成を協議した。

今月中は発行中断

本紙の発行は今月いっぱい発行(本日は)は停止しますが、何分発行中断のやむなきに至ったが、お詫を願ひ申し上げます。読者の迷惑を考慮し、すみやかに本紙の印刷料は収めた直に印刷を再開し、関係金銭の戻りから全額をいたたき、発行の手続きを急ぎ進めたいと願ひ申し上げます。

平・五町目線が家屋の隙間を高くコンクリートへいませめて

この五十方に気を配るべきである。